燃ゆる感動 かごしま国体
特別国民体育大会 熱い鼓動 風は南から 2023

# 国体通信 vol.3

## 太陽国体 当時を振り返る

昭和47年(1972年)「明るく　たくましく　うるわしく」をスローガンとして、鹿児島県で太陽国体(第27回国民体育大会)が開催されました。旧川内市ではバスケットボール、旧樋脇町ではホッケー競技が行われました。太陽国体に関わった方々に当時のお話と2023年燃ゆる感動かごしま国体への思いを伺いました。

### 総合開会式で自顕流を披露

中原（なかはら）　博徳（ひろのり）さん

開会式での披露後の一枚

中原さんは、当時、職場の近くで自顕流の稽古をしている人がいたことをきっかけに、ご自分も興味を持って始めたそうです。

当時のことは、「薩摩の武道ということで、開会式で自顕流を披露しましたが、緊張していたのか記憶がほとんどありません」と苦笑い。「国体は独特の雰囲気があり、緊張すると思いますが、普段出せない力も出せると思うので、選手の皆さんには頑張ってもらいたいです」と話してくださいました。

### 炬火リレーが甑島でも

野島（のしま）　秋彦（あきひこ）さん

炬火リレーを走った野島さんたち

当時、県全体で2万人以上が参加した炬火リレー。当時中学3年生だった野島さん。里港から女子中学生が出発し、男子中学生、一般女子、一般男子がリレーをし、旧上甑村へと炬火をみんなでつないだそうです。

「令和2年の炬火リレーにも地区代表で応募して、2回目の参加を楽しみにしていました。令和5年の炬火リレーにも参加し、国体を盛り上げたいです」。

熱い思いは当時のままに、新しいかごしま国体に期待を寄せています。

### 父の思い出とともに

宇都（うと）　晃子（てるこ）さん

花いっぱい運動

「当時、小学生だった私は、父が国体事務局の事務局長をしていた関係で、家の近くの緑地にマリーゴールドやサルビア、カンナを植えて文字を書いたり、黄色と赤のハンカチを持って国体ダンスを踊ったりしました。今度のかごしま国体も非常に楽しみで、ぜひ見てみたいとの思いがあります。選手の皆さんには頑張ってもらいたいです」。

太陽国体で奔走したお父さまの思いのバトンは、しっかり引き継がれています。

### ポスターが採用されて

松下（まつした）　千秋（ちあき）さん

当時、太陽国体のポスターに関わった松下さん。「高校時代に旧川内市の国体ポスターデザインの募集があり、自分のデザインが採用されました。その後、市の職員となりスタッフとしても国体に関わることができました。当時は、川内商工高校の会場で通信係として従事していましたが、職員になったばかりの上、日々必死で業務をこなしていたので、当時の記憶がありません（苦）。コロナが落ち着いて、無事に開催できるなら今度はゆっくり応援したいです」。

新たな気持ちでかごしま国体を待ち望んでいます。

令和5年のかごしま国体開催までもう少し。市では、1972年に開催された第27回国民体育大会（太陽国体）をテーマとした企画展を開催しています。

燃ゆる感動 かごしま国体
特別国民体育大会 熱い鼓動 風は南から 2023

※観覧自由です。ぜひご覧ください。

燃ゆる感動かごしま国体開催500日前企画展
**太陽国体アーカイブ「太陽のこころあの日の想い」**
期間：令和4年5月25日(水)～令和4年8月31日(水)場所：サンアリーナせんだい　エントランスホール

当日は、青壮年部の若い衆が、午前10時頃から集まって、田の神の化粧を直し、竹で編んだかごにヤマブキの花・八重桜・野菜の花などを飾り、小豆を混ぜた餅をわらで編んでくるんだ物と、青竹に焼酎を入れた物を、かごに括りつけます。そして、踊り子が田の神の分身となって女装し、顔にはヘグロ（灰墨）を塗ったり化粧をしたりして、麦わら帽子で覆い、ホラ貝とかねの楽と歌に合わせて踊る、独特の神舞に似た踊りを行います。

田の神講における回り田の神像の家移りの中でも、祁答院町蘭牟田地区の「田の神戻し」は、花に彩られた美しさにおいて他に類を見ません。

## 田の神とともに

田の神は奥が深く、まだまだ多くの人が研究・調査の段階ではあるものの、薩摩川内市内で少なくとも300体以上が確認できているようです。

それは、共通して田んぼを守り、農作物の豊作をもたらす神として、「五穀豊穣」「田畑守護」などの身近な祈願のよりどころとなっています。

「タノカンサァ」という名称や石像などにして祭る習慣ができたのは、厳しい年貢米の取り立てにより生活に苦しんだ農民たちが気持ちを少しでも軽くしたいと願ったからではないかと思われます。

そんな時代から現代まで風習が残っているのは、その時代の背景に合わせ、農耕の神としてだけでなく、子孫繁栄や無病息災などのささやかな幸せを願ってきたからではないでしょうか。

これからも末永く私たちを優しくユーモアあふれた姿で見守り続けてもらうためにもこの文化を後世に引き継いでいきたいものですね。

皆さんが知りたいことや紹介したいことなどがありましたら、情報をお寄せください。
**問合先**／本庁秘書広報課
企画総務・広聴広報G（内線4122）

UD FONT